

学部長選
改選

2学部長が新任

任期満了に伴う3学部の学部長選が各学部教授会で行われ、法学部長に榎透教授、商学部長に小林守教授が選出された。ネットワーク情報学部長には飯田周作教授が再任された。任期は本年9月1日から2027年8月末まで。新任の2学部長に、学部の特徴や抱負などをお聞きした。

法学部長



榎透

【略歴】九州大学法学部卒。同大学院比較社会文化研究科博士課程単位取得退学。博士(比較社会文化)。2005年法学部専任講師、15年同教授。高校生のときに岩波新書『憲法と天皇制』を読み、著者の横田耕一氏に師事するため九州大へ。趣味はクラシック音楽鑑賞と読書。『憲法と天皇制』は今読んで名著です。ほかにも日本の古代史や南北朝に関する本をよく読みます。埼玉県出身。53歳。

法学部では、社会の中さまざまな問題を法学や政治学の観点から分析することを学びます。

法律学科では12の履修モデル、政治学科では三つのコースを設け、学生の興味関心や将来の進路に応じて、体系的に学べるようカリキュラムが設計されています。法律学科の場合、たとえ途中で目標が変わって進路変更しても、卒業要件に影響しないように設計されており、卒業時には自分の希望する学びが完成できるよう、学生一人一人を支えるプログラムになっています。

法学部の特徴的な制度としては、早期卒業があります。3年次までで学部の学びを終わらせ、法科大学院や大学院への進学が可能になります。すでに制度を利用し、司法試験に合格した人もいます。早期からの取り組みが必要ですが、希望する学生には上手に制度を活用してほしいと思っています。法学や政治学は取っ付きにくいと感じる人もいます。

法と政治を通じて柔軟に社会を読み解く

社会にはいろいろな人がいて、さまざまな考え方があり、場合によっては利害が衝突することもあります。この社会の中で人々がそれなりに仲良く暮らしていくために、法や政治が存在します。法学部での学びは、社会における問題を発見し、問題を法や政治の視点から分析し、解決する、そういう力を身につけることなのです。自分の考えは大事ですが固執しすぎず、いろいろな考え方を持っていたほうがいいですね。私は憲法が専門ですが、一つの問題について「合憲」「違憲」と判断が分かれることがあります。どのような問題にしろ、できれば両方の立場から理論を組み立てられるようにすべきだと思います。そして異なる分野の知識も活用できるように、教養を深めることが求められます。学部のアドミッションポリシーでは「真摯に学ぶ熱意」を第一に掲げています。熱い問題意識を持ちつつ、冷静に分析・判断する力を育むことが、法学部での学びの本質といえます。

新学部長に聞く

商学部長



小林守

専修大学の商学教育は今年120周年を迎えました。商学教育とは企業や消費者を対象にした知識に焦点を当てるものですが、商学部では経済学や国際的な視点も含めて、世の中の枠組みを俯瞰できるような教育を行っています。近年は献身的でプロフェッショナル意識の高い教職員スタッフの努力により、ビジネスの急速な変化に対応できる教育態勢が一層充実してきました。学内にどまらず、学外にも飛び出して企業や地域と協業する機会が増えるなど、多様なビジネスとの関わりも充実してきています。2020年に東京の中心地である神田キャンパスに移転してからは、学生たちも知識と社会との関連を一層リアルに感じ取り、それを学修意欲に結び付けているように思います。移転直後に凶ろなコロナ禍に見舞われたわけですが、それも糧としてオンライン授業をはじめデジタル社会に適応する新たな学び方も創出できてきています。

変化に負けない知力と包容力のあるビジネスパーソンを育成

1タサイエンス教育もその一つです。こうした学びの環境の変化を通じて、学生諸君が自分の将来像を明確にし、目標の実現に結び付くような学びを身につけてくれればよいと考えています。個人的な感想になりますが、私が入職した約20年前と比べて、商学部の意識は大きく変化しているように感じます。スペシャリスト志向や起業志向が高まり、得意な分野でビジネスを自ら動かしていこうというマインドを持つ学生が増えてきているようです。また、以前よりも海外で活躍するために必要な知識を修得したいという意欲も強く感じます。変化が多く、不確実性の高いグローバルな社会への流れは止まらないと思いますので、卒業後は予期せぬことも多いと思います。学生の皆さんには知力とともに、困難に負けない柔軟な思考と包容力のある人間性を兼ね備えた人材として巣立っていただきたいと思っています。

【略歴】一橋大学社会学部卒。早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得退学。国際大学MBA。海外経済協力基金(現・JICA)、三菱総合研究所を経て、2007年商学部専任講師。14年同教授。大学院商学研究科長、キャリアデザインセンター長等を歴任。専門は国際経営。これまで香港駐在(約3年間)を含め35カ国地域で調査研究を経験。各国の国旗や民芸品を収集するのがささやかな趣味となっている。秋田県出身。66歳。

映画と文化、モダンニズム考察

人文科学研究所(田中正敬所長)の公開講演会「淀川長治—映画の伝道師とアメリカ文化」が7月12日、神田キャンパスで行われた。ウィリアム・アンド・メアリー大学(アメリカ)准教授の北村洋さんが、20世紀という時代を生きた映画評論家の淀川長治(1909~98年)に着目し、アメリカの映画と文化、日本のモダンニズムについて考察した。



北村さんの専門はアメリカ外交、映画、文化。人文科学研究所(田中正敬所長)の公開講演会「淀川長治—映画の伝道師とアメリカ文化」が7月12日、神田キャンパスで行われた。ウィリアム・アンド・メアリー大学(アメリカ)准教授の北村洋さんが、20世紀という時代を生きた映画評論家の淀川長治(1909~98年)に着目し、アメリカの映画と文化、日本のモダンニズムについて考察した。

人文科学研究所公開講演会 「淀川長治」

議論する北村さん、渡邊教授、末廣教授(左から)



「淀川とは何者なのか」「読み解くためのキーワード」「生涯をなぞる」「映画をめぐる文章の変遷」の4部構成で進んだ。淀川と言えば、日曜洋画劇場を締めくくると「さよなら、さよなら」の根底にあると解説した。講演後には本学の渡邊真理子文学部教授、末廣幹文学部教授も登壇し、意見交換や来場者との質疑応答も行われた。

中期留学プログラム(後期)



- 2025年度中期留学プログラム(後期)の留学中国語コース1人、コアア語コース3人、スペイン語コース1人に決まったII写真。留学先と派遣期間、氏名、学部学年は次の通り。(敬称略)
- カルガリー大学(カナダ、9月12日~12月15日)
- 鈴木真生(経済3)
- 浜西奏(経済2)
- 鈴木心乃(法2)
- 森田大介(経営3)
- 坂井桃(国コミュ3)
- ワイカト大学(ニュージーランド、8月3日~12月1日)
- 長谷川一真(経済3)
- 安藤究(経済3)
- 岩佐希夢(経営3)



- 檀国大学(韓国、8月4日~12月21日)
- 平田慎之介(経営3)
- 山下亜美(文3)
- 高松花菜(国コミュ4)
- グアナフアト大学(メキシコ、8月4日~12月1日)
- 加賀結子(経済3)

2025年度セメスター交換留学プログラムの留学生は、英語コース3人に決まったII写真。留学先と派遣期間、氏名、学部学年は次の通り。(敬称略)

- ダブリン大学トリニティイカレッジ(アイルランド、9月~12月)
- 今關柚穂(経済4)
- オレゴン大学(米国、9月~12月)
- 藤田菜帆(文3)
- 城間奏羽(文3)